

令和8年度 手稲中学校「学ぶ力」育成プログラム

学校番号：37501

自ら課題を見付け、自ら学び、自ら問題を解決する資質・能力

「学ぶ力」	
成果	課題
<ul style="list-style-type: none"> ◇子どもに寄り添った指導を行うとともに、他者の意見や考えを尊重する機会を意識的に設けてきた。その結果、生徒が安心して活動に取り組むことができる学習環境の形成につながった。 ◇共通指標である「分からないことがあったときに、友達や先生に聞くようにしている」や「人の意見を聞いて、それを参考にして自分の考えを見直すことがある」の項目では、肯定的な回答の割合が高く、生徒の主体的な学びの姿勢がうかがえる。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇共通指標のうち、「自分の意見を進んで発言する」および「振り返りを通して、自分の伸びや成長を感じる」の項目では、肯定的な回答の割合が低く、自己表現や内省の面での課題が見られる。 ◇全国学力・学習状況調査においても、「話し合う活動を通じて、自分の考えを深め、広げる」「授業で学んだことを、ほかの学習に生かす」の項目で全国平均を下回っており、学びの深化や活用に課題がある。 ◇また、学びの中で自分の考えを表現することに消極的な生徒や、自分のよさを十分に発揮できていない生徒が見られるなど、見えにくい困難を抱える子どもへの支援の在り方が課題となっている。
<p>「学ぶ力」の基盤〈協働を通して磨く 相互承認の感度〉の現状と課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇共通指標の相互承認に関する項目では、他者からの承認に関わる項目の肯定的回答は高い一方、自己承認に関わる項目は相対的に低い傾向が見られる。 ◇今後は、子ども一人一人が自分のよさや可能性を自覚できるよう、学習活動や人間関係、学習環境の再構築を図る必要がある。 	

「学ぶ力」の育成のために着目する資質・能力

自他のよさを認め、主体的に学びに向かう力

全ての子どもを包摂し、見えにくい困難を抱える子どもも含め、一人一人が学びに参加し、自分のよさや可能性を発揮できることを目指す。

取組	課題探究的な学習の推進 に向けて	自主的な活動の充実 に向けて
	<ul style="list-style-type: none"> ◇対話的な学び（協働的な学び）の場面の創出 <ul style="list-style-type: none"> →お互いの意見や考えを交流する学習活動を計画的に設定・工夫する →地域や実生活と関わる課題を扱うなど「本物の経験」を生み出す学習場面を設定する ◇振り返りの場面の充実 <ul style="list-style-type: none"> →子どもの学びの変化や成長を積極的に認める「返し」を継続的に行う（形成的評価） →ICTを活用し、意見の可視化や振り返りの共有を行うことで、学びの深化を図る ◇学びの見通しと自己調整の場面の充実 <ul style="list-style-type: none"> →単元の中で生徒が自ら課題を設定し、学習の見通しを立てる場面を意図的に位置付ける →振り返りを通して、自らの学びを調整し、次の学びに生かすサイクルの確立を図る 	<ul style="list-style-type: none"> ◇手稲中学校「美しい心プロジェクト」の推進 <ul style="list-style-type: none"> →挨拶と合唱を核とし、生徒の心の成長や変化を可視化し、次の行動につなげる全校的な取組の推進 →全校集会や学級での話し合いを通して、多様な考えを交流・共有し、生徒が主体的に学校づくりに関わる機会の充実 →ICTを活用し、生徒の意見を集約・可視化し、学校全体で共有・改善につなげる循環型の仕組みの構築 ◇自分たちの生活や活動を振り返る機会の設定 <ul style="list-style-type: none"> →学校祭や合唱発表会等の行事に向けて、学級の現状や課題を議題とした学級会の実施
<p>「学ぶ力」の育成の一層の充実を図る ICTの活用について</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇対話的な学びや振り返りの場面において、ICTを活用し、生徒一人一人の考えや意見を可視化・共有することで、多様な考えに触れながら自分の考えを深める学習を推進する。 ◇Google フォーム等を活用して生徒の意見や考えを集約し、学級・学年・全校で共有することで、自主的な活動における合意形成や課題解決につなげる。 ◇振り返りの場面において、ICTを活用して学びの過程や変容を蓄積・共有することで、生徒が自らの成長を実感し、次の学びに生かすサイクルの確立を図る。 ◇生徒が目的に応じてICTを選択・活用できるようにすることで、主体的な学びの実現を図る。 		

<本プログラムの実行に向けて>

